

世界日報

平成6年(1994年) 11月16日(水曜日)

「東アジア時代」見据え 新しい理念を活発論議

第23回 ICWP が閉幕

「東アジア時代と新文明創造のビジョン」をテーマに十四、十五の両日、東京・市ヶ谷の私学会館で「第23回世界平和に関する国際会議(ICWP)」と「第3回東アジアハイウェイ計画に関する国際会議」が共同開催された。

二十一世紀を目前に、文

穴戸寿雄実行委員長のあいさつで閉会した東アジアに関する国際会議。15日、東京・市ヶ谷の私学会館で



明の中心が東アジアに移行しつつあるとの認識から、東西両文明の調和した新文明を模索しようとするもの。世界平和教授アカデミーと国際ハイウェイ建設事業団が主催。穴戸寿雄・東洋学園大学学長が実行委員長を務め、日・韓・中など

アシアセカ国と米国の学者・専門家が四つの分科会で活発な議論を交わした。初日の全体会議では、各国の首脳クラスに幅広い人脈を有し、北朝鮮の金日成主席とも生前、何度も会見したアントニオ・ベタンコ

ート氏(世界平和頂上会議理事長)が、「東アジア安定への要因について講演。その中で同氏は「米朝合意が守られるなら、西側諸国との敵対関係を終えんさせる新しい関係の門出となる。今後の北東アジアの政治構造を好転させる」と米朝合意を評価した。

四分科会のテーマは①東アジアの安定と発展のための諸条件②世界経済のけん引車としての東アジア③混乱の時代を導く新しい理念④東北アジアの開発と国際ハイウェイ・日韓トンネルの役割。

第三分科会では、物事を対立的にとらえる西洋の価値観が深刻な問題を生んでいるのに対し、東洋には対立を超え、全体の秩序と平和、繁栄をもたらす理念「和イズム」があると指摘された。第四分科会の中で、北朝鮮の輸送施設の現況が伝えられ、南北韓の輸送協力の案が示された。十五日の全体会議で各分科会の議長から、討論内容が報告された。東アジア発展のため

には、協調と相互主義がポイントとなる。社会主義と資本主義が物質主義に基づいているのに対し、新しい理念はより高い道徳性が求められる。経済活動の発展には、グローバルな交通・輸送手段の整備が重要であり、自然破壊や無公害への配慮が必要。国際政治の環境が変化し、中国は国際ハイウェイ建設に積極姿勢を示している。

その後、李相軒・韓国統一思想研究院院長の「大混乱の中で崩壊する価値観、倫理感を立て直し、理想的な世界平和を実現することが、人類の願い。宗教の対立を和解させ、宗教統一を目指す神主義、左翼と右翼の思想対立に和解と統一を目指す頭翼思想こそが、世界平和を実現し得る」との閉会のあいさつが代読された。

穴戸氏は「一歩一歩正しい方向に歩むことで、近い将来実現できると確信する」と会議を締めくくった。